

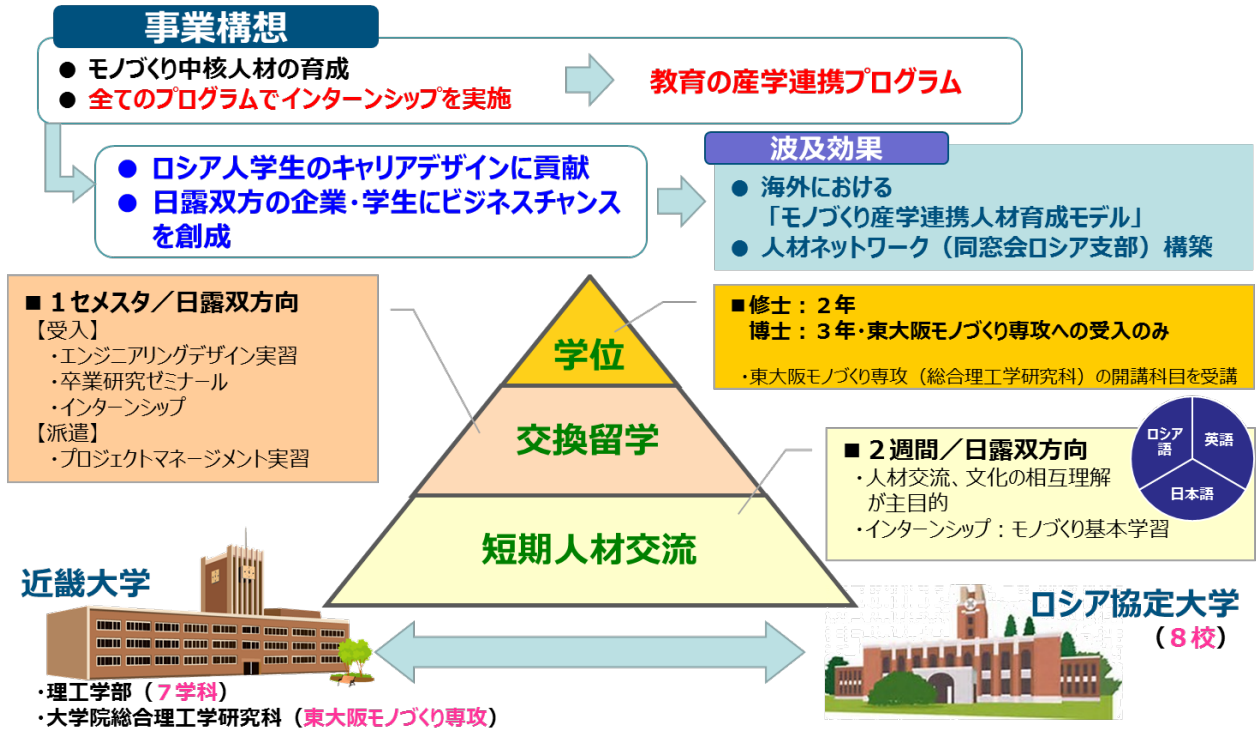
大学の世界展開力強化事業(平成29年度選定) 近畿大学 取組概要

【事業の名称】(選定年度29年度・(タイプAロシア))

日露間で活躍できるモノづくり中核人材の育成

【事業の概要】

本事業は、近畿大学とロシアの協定校が学部から大学院にわたる学生交流に取り組む、教育の産学連携プログラムである。教育プログラムは近畿大学で培われてきたモノづくり人材育成の経験とノウハウに立脚し、さらに近畿大学の立地条件を生かしたモノづくり企業からの実務的な協力を基盤として構成されている。



【交流プログラムの概要】

教育プログラムは①短期人材交流プログラム(2週間/双方向)、②交換留学プログラム(1セメスタ/双方向)、③学位プログラム(修士:2年、博士:3年/東大阪モノづくり専攻への受入のみ)の3層で構成され、これら全てにおいて企業でのインターンシップが実施される。また、②では、ロシア協定校と人材ニーズを十分に反映した協同教育の企画・運営を行い、協同教育プログラム委員会の設置等、単位互換・ジョイントディグリーの可能性を検討する。ロシアに留学する学生に対しては初等ロシア語教育、危機管理教育等の渡航前教育を十分に行い、ロシアからの受入学生には日本語・日本文化研修等を人材交流の一環として実施する。本事業の円滑な実施のため、マグロの養殖事業を通じて近畿大学と協力関係にある豊田通商株式会社および豊田通商ロシアと連携し、豊田通商ロシアのモスクワ、サントペテルブルグ事業所内に、近畿大学モスクワおよびサントペテルブルグ事務所を設置している。両事務所は、本事業におけるロシア企業の人材育成ニーズ調査、ロシア国内でのインターンシップ実施、学生の安全確保・危機管理のための情報収集等を一括して行う。

【本事業で養成する人材像】

日露間で事業展開する企業において製品開発プロジェクトを推進・牽引できる実務型のグローバル人材を育成する。

【本事業の特徴】

本事業提案の背景は日本の経済再生、ロシアの経済発展にある。近畿大学が強みをもつモノづくり分野の教育プログラムをロシアに展開し、本事業の目的を達成する。モノづくり教育を通じて、現場で活躍できる実務型のグローバル人材を育成し、また、日露双方の学生・企業にビジネスチャンスを生み出す。さらに、近畿大学は、理工、医学、農学、水産、原子力等の分野の教育・研究活動を推進する総合大学として、本事業を通じてロシアとの人的交流の飛躍的拡大に貢献する。

【交流予定人数】

	H29	H30	H31	H32	H33
学生の派遣	5	15	20	20	20
学生の受入	5	15	20	23	26

1. 取組内容の進捗状況(平成29年度)

【日露間で活躍できるモノづくり中核人材の育成】(選定年度29年度・タイプA(ロシア))

■ 交流プログラムの実施状況



〈短期人材交流プログラムの様子〉

・短期人材交流プログラムの実施

1月に2週間の受入プログラムを実施し、ロシアの交流協定校5大学から学生10名、教員4名が参加した。また、2月には2週間の派遣プログラムを実施し、本学学生12名がモスクワ国立大学、ドゥブナ国立大学、ロシアに進出している日系企業4社で研修を行なった。これらの研修を通じて双方の学生交流が進み、さらに「モノづくり」に対する理解を深めることができた。

交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

14名の学生をモスクワ、ドゥブナ、トリアッチ、サンクトペテルブルグなどロシア各都市に1～2週間派遣した。

○ 外国人学生の受入

ロシアの交流協定校5大学(モスクワ国立大学、サンクトペテルブルグ国立大学、ドゥブナ国立大学、モスクワ工業物理大学、極東連邦大学)より10名の学生を受け入れた。

	H29	
	計画	実績
学生の派遣	5	14
学生の受入	5	10

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

・キックオフシンポジウムを実施、交流のある9大学の代表団が来日

キックオフシンポジウムを2日間にわたり3月に実施。本事業の交流実施7大学の代表団および「モノづくり」を共有するロシアの2大学から代表者が参加。今後の大学間交流の枠組みや本事業への取組について議論した。



〈キックオフシンポジウムの様子〉

■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

・ロシア6大学と新たに大学間交流協定を締結

サンクトペテルブルグ国立大学、ITMO大学、ドゥブナ国立大学、ロシア連邦政府付属ファイナンシャル大学、極東連邦大学、モスクワ工業物理大学(MEPHI)の6大学と新たに大学間交流協定を締結し、各大学との交換留学を実現する環境を整えた。



〈キックオフシンポジウムの様子〉

■ 事業の実施に伴う大学の国際化の状況、情報の公開、成果の普及

・理工学部4学科、国際学部1学科から参加

全学的な協力・連携のもと、理工学部の学生のみならず、他学部の学生に対しても海外研修へ参加する機会を提供した。訪問先の大学では日露双方の学生交流を通じて世界観を広げ、また、「モノづくり」に関心のある学生がロシアに進出する日系企業4社で研修を行ない、国際経験を積む貴重な機会となった。これらの研修成果は学内外の報告会を発表を行なっている。

■ グッドプラクティス等

・「世界展開力強化事業(ロシア)」を国内外にアピール

3月に実施したキックオフシンポジウムには国内外から約600名の参加があった。とくに日本側からは世耕弘成経済産業大臣兼ロシア経済分野協力担当大臣、ロシア側からゴロジェツ・オリガ副首相(ロシア教育問題担当)、オレシキン・マクシム経済発展大臣が参加し、講演ならびにパネルディスカッションを行なった。両国の閣僚がキックオフシンポジウムに参加したことで本学のプログラムのみならず、「世界展開力強化事業(ロシア)」を国内外に周知することができた。

2. 取組内容の進捗状況(平成30年度)

【日露間で活躍できるモノづくり中核人材の育成】(選定年度29年度・タイプA(ロシア))

■ 交流プログラムの実施状況



〈短期人材交流プログラムの様子〉

・1セメスター交換留学がスタート

平成29年度に引き続き短期人材交流プログラム(2週間/双方向)を実施した。ロシアからは交流協定校8大学の学生・教員が本学での研修に参加し、本学からは学生・教員がモスクワ国立大学、モスクワ工業物理大学、ITMO大学(サンクトペテルブルク)、ロシアに進出している日系企業で研修を行なった。また、交換留学プログラム(1セメスター/双方向)が新たにスタートし、ロシアから8名の学生を受け入れるとともに、本学から4名の学生をロシアの交流協定校に派遣し、専門分野におけるモノづくり中核人材の育成が本格化した。

交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

日本人学生4名を1セメスターの交換留学生として、モスクワ、ドゥブナ、サンクトペテルブルクに派遣。短期人材交流プログラムでは、のべ21名をモスクワ、サンクトペテルブルク、ウラジオストクなどロシア各都市に派遣した。

○ 外国人学生の受入

ロシア各地の大学から8名の1セメスター交換留学生を受け入れた。短期人材交流プログラムでは24名の学生が「モノづくり」をキーワードに参加した。

	H30	
	計画	実績
学生の派遣	15	25
学生の受入	16	32

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

・ロシア留学生モノづくりインターンシップを実施

1セメスター交換留学プログラム(受入)に参加するロシアからの留学生に対して、モノづくり企業11社の協力を得て「ロシア留学生モノづくりインターンシップ」を実施した。

・留学プログラムに単位取得を伴う科目を開設し、質の保証を確保

交換留学プログラムを実施するにあたり、受入留学生には理工学部の新規科目「エンジニアリングデザイン実習」(12単位)、「基礎ゼミ1/2」(各2単位)、「卒業研究ゼミナール」(1単位)の計17単位を用意し、派遣留学生には理工学部の新規科目「プロジェクトマネジメント実習」(12単位)と「ロシア語I/II」(各1単位)を開設した。

■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

・ロシア2大学、1団体と新たに交流協定を締結

スコルコボ科学技術大学、モスクワ市立大学の2大学と新たに大学間交流協定を締結したほか、実業ロシアと協力協定を締結し、各大学・機関との交換留学・協力強化を実現する環境を整えた。



〈実業ロシアとの協力協定締結〉

■ 事業の実施に伴う大学の国際化の状況、情報の公開、成果の普及

・プログラム参加学生の活動報告会を実施

海外研修・交換留学の帰国報告会およびロシア留学生研究活動報告会を計4回実施し、研修参加学生が研修の成果を報告した。報告会には多数の学生、教職員が参加し、本プログラムの意義について理解を深めた。

・セミナーを通じて本事業の取り組みを内外に発信

日露大学間交流セミナー「日露間で活躍できるモノづくり中核人材の育成」(於:サンクトペテルブルグ)をはじめ、「近畿大学研究シーズ発表会」などを通じて、近畿大学とロシア交流協定校との取り組み成果を内外に発信している。

■ グッドプラクティス等

・日露青年フォーラム2018を開催

「日露青年フォーラム2018」(日露青年交流センター、ロシア青年人材センターとの共催)を近畿大学で開催。総勢95名(本学学生18名を含む日本人47名、ロシア人48名)が参加し、「未来に続く日本とロシアの協力」を全体テーマに、中小企業交流・協力の抜本的拡大等4つのサブテーマについて日露の青年が議論を行なった。本事業は「日本におけるロシア年」公式イベントとして認定を受けた。

3. 取組内容の進捗状況(令和元年度)

【日露間で活躍できるモノづくり中核人材の育成】(選定年度29年度・タイプA(ロシア))

■ 交流プログラムの実施状況



〈モノづくり企業の視察(受入)〉

・ 1セメスター交換留学・短期人材交流を実施

平成30年度に引き続き1セメスター交換留学と短期人材交流プログラムを双方向で実施し、計26名をロシアへ派遣し、25名を本学で受入れた。**1セメスター留学の派遣・受入数は過去最大**となり、質・量ともに日露間で活躍できるものづくり中核人材の育成が本格化した。交換留学で派遣した日本人学生は、日系企業の協力の下、「国際プロジェクトマネジメント実習」などを実施。交換留学で受入れたロシア人学生は、**モノづくり企業11社でのインターンシップ**を含む「エンジニアリングデザイン実習」や専門に応じたゼミに所属し日本人学生と共に研究活動を行う「理工学国際ゼミナール」を実施した。このように、**産業界と連携した教育プログラム**の構築が順調に進んでいる。

交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

日本人学生**5名を1セメスターの交換留学生**として Санктペテルブルグ、カザンへ派遣。**短期人材交流では21名**をモスクワ、カザンなどへ派遣した。

○ 外国人学生の受入

ロシア各地の大学から**10名を1セメスターの交換留学生**として受入れ。**短期人材交流では15名**を受入れた。

	R1	
	計画	実績
学生の派遣	26	26
学生の受入	26	25

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

・ プログラムに関わる新規科目を開講

本プログラムを実施する理工学部において、「エンジニアリングデザイン実習」、「国際プロジェクトマネジメント実習」、新規科目「理工学国際ゼミナール」を開講した。これにより、実習を含む教育活動も質の保証を伴った科目として展開できるようになった。



〈ロシア人学生との交流(派遣)〉

■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

・ ロシア3大学との交流を本格化

連携大学として追加した**ドン国立工科大学、カザン連邦大学、スコルコボ科学技術大学**との交流を本格化した。ドン国立工科大学とカザン連邦大学は、それぞれ工業生産が盛んなロストフ州、タタルスタン共和国における主要大学として教育・研究をリードしている。これらの大学と連携することで、モノづくり人材養成に関わるロシアとの連携を、より**多分野、多地域で展開**することが可能となった。



〈英語での講義を受講(派遣)〉

■ 事業の実施に伴う大学の国際化の状況、情報の公開、成果の普及

・ セミナー、帰国報告会、留学相談会を実施

連携大学の教員によるセミナー、プログラム参加学生による帰国報告会、ロシア留学相談会を開催し、学生・教職員がロシアとの交流と国際化について理解を深める機会を設けた。

・ 日露大学協会への貢献

日露の大学で構成される日露大学協会の加盟校として、シンポジウム等で本プログラムの成果を日露の主要大学へ提供している。

■ グッドプラクティス等

・ 大学院学位プログラムの受入れを次年度より開始、4名の受入れが決定

本プログラムにおいて、学部での交流プログラムを経た次の段階である、**大学院「東大阪モノづくり専攻」**でのロシア人学生の受入れ準備を整え、ロシアおよび日本で入学試験を実施し、**次年度より4名を受入れることが決定**した。大学院「東大阪モノづくり専攻」では、モノづくり企業でのインターンシップと連動させた研究活動を行い、修士号または博士号の学位の取得を目指す。

4. 取組内容の進捗状況(令和2年度)

【日露間で活躍できるモノづくり中核人材の育成】(選定年度29年度・タイプA(ロシア))

■ 交流プログラムの実施状況



〈モノづくり企業でのインターンシップ〉

・ 学位プログラムを開始／オンライン交流プログラムを実施

本年度は、新型コロナウイルス感染症の世界的な蔓延に伴い日露間の渡航が困難となった。この状況下でも学生交流を継続するため、**オンラインによる交流プログラムを実施した**。2021年2月に実施した「**近大・ロシアものづくり学生フォーラム**」では、本学とロシア協定校の学生が事前のオンライン講義を受けた後オンラインで集い、製品アイデアの発表やディスカッションを行うプログラムに取組み、49名が修了した。また、本年度から大学院総合理工学研究科「**東大阪モノづくり専攻**」においてロシア人学生4名を受入れ、**モノづくり企業でのインターンシップ**と連動した研究を行い、修士号取得を目指すプログラムを開始した。

交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

新型コロナウイルスの流行により渡航を伴う派遣ができなかった。代替として、オンラインでの学修やオンライン交流プログラムを実施した。

○ 外国人学生の受入

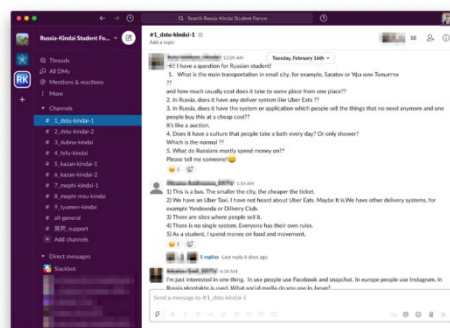
学位プログラムで2名の学生を受入れた。その他は新型コロナウイルスの流行により受入れができなかった。代替として、オンライン交流プログラムにおいて参加を受入れた。

	R2	
	計画	実績
学生の派遣	26	26
学生の受入	29	27

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

・ プログラム科目の新規開講が決定

新規科目「**海外語学研修(ロシア語)**」の開設準備を行い、次年度からの開設が決定した。この科目の開設により、交換留学中に協定校で単位取得した語学科目の単位互換がより円滑になることが見込まれる。



〈 Slack を使ったオンライン交流 〉

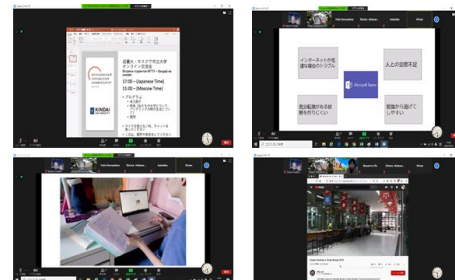
■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

・ ロシアASI(戦略イニシアティブ・エージェンシー)と協力協定締結

ロシアにおいて産業イノベーションを推進するASI(The Agency for Strategic Initiatives)と協力協定を締結した。ASIはロシア全土の大学とも連携しており、今後ロシアとの産学連携を伴う交流をより円滑に実施する環境が整った。

・ オンライン授業の体制整備

新型コロナウイルスの流行に伴い、オンラインでの学修や交流ができる体制を整えた。オンデマンド映像教材の制作や、チャットコラボレーションツールのSlackの導入により、時差のある地域とも円滑な交流ができるようになった。



〈 Zoom を使ったオンライン交流 〉

■ 事業の実施に伴う大学の国際化の状況、情報の公開、成果の普及

・ オンラインで「**理エスチューデントフォーラム**」を実施

本学理工学部生を主な対象とし、「**理エスチューデントフォーラム**」をオンライン開催し、プログラム参加学生による帰国報告や現代ロシアに関する特別講義を実施した。これにより、学生・教職員がロシアとの交流と国際化について理解を深めることができた。

・ 日露大学協会でのベストプラクティスの共有

日露の大学で構成される日露大学協会の活動において、オンライン化に伴う交流事業実施のノウハウ等を発表し、成果の普及に努めた。

■ グッドプラクティス等

・ 大学院学位プログラムの2期生受入れが決定／オンライン入試を実施

大学院総合理工学研究科「**東大阪モノづくり専攻**」へ、第1期生(2名)、第2期生(2名)が入学した。同専攻では、モノづくり企業でのインターンシップと連動させた研究活動を行い、修士号または博士号の学位の取得を目指す。また、3期生の選抜のため、同専攻で初の**オンライン入試**を実施し、2名が合格した。

5. 取組内容の進捗状況(令和3年度)

【日露間で活躍できるモノづくり中核人材の育成】(選定年度29年度・タイプA(ロシア))

■ 交流プログラムの実施状況



〈ロシア派遣先大学にて〉

・ 交換留学派遣・学位プログラム・オンライン交流プログラムを実施

本年度も引き続き、新型コロナウイルス感染症の蔓延に伴い日露間の渡航が困難であったが、**交換留学として3名を派遣**した。大学院総合理工学研究科「東大阪モノづくり専攻」においては、**ロシア人学生6名を受入れ、モノづくり企業でのインターンシップ**と連動した研究を行い、修士号取得を目指すプログラムを実施した。また、渡航を伴う短期人材交流プログラムに代えて、**オンラインによる交流プログラム**を実施した。2021年8月、2022年2月に実施した「**近大・ロシアものづくり学生フォーラム**」では、本学とロシア協定校の学生がオンライン講義を受けた後、モノづくりやテクノロジーをテーマとするグループワークに取り組んだ。

交流プログラムにおける学生のモビリティ

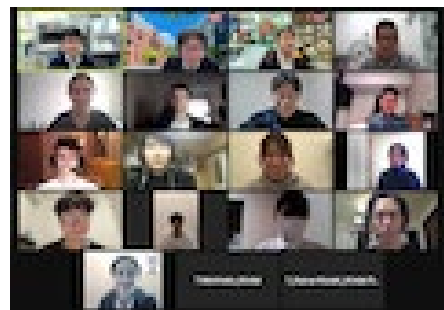
○ 日本人学生の派遣

1セメスター交換留学として、滞在中の健康・安全に最大限配慮した上で、3名をロシア協定校へ派遣した。短期人材交流プログラムは、渡航が伴う交流に代えて、オンラインプログラムを実施した。

○ 外国人学生の受入

学位プログラムでのべ6名の学生を受入れた。そのうち4名が2022年3月に日本へ入国した。その他の交換留学等では入国規制が継続したため、日本での滞在ができなかった。代替として、オンライン交流プログラムを実施し、希望者を受入れた。

	R3	
	計画	実績
学生の派遣	26	21
学生の受入	32	16



〈オンラインプログラムの様子〉

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

・ 単位互換実績表の整備

これまでの単位互換実績をまとめた、「単位互換実績表」を作成した。これにより、留学時に取得できる単位数の目安ができ、より質の保証を伴った留学を促進できると考えられる。

■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

・ コロナ対応の体制整備

新型コロナウイルスの蔓延が続く中、渡航を伴う派遣・受入のできる体制づくりを進めた。派遣学生に対しては、派遣先大学と感染状況や受入時の対応を念に確認し準備を進め、留学中はチャットツールのSlackを使い、オンラインで常に連絡・相談ができる体制を整えた。また、帰国時の待機施設や交通手段の確保を行った。受入学生に対しては、入国時の待機施設・交通手段の確保の他、キャンパス内での抗原検査やPCR検査を提供した。



〈「理エスチューデントフォーラム」での講演〉

■ 事業の実施に伴う大学の国際化の状況、情報の公開、成果の普及

・ オンラインで「理エスチューデントフォーラム」を実施

本学理工学部生を主な対象とし、「理エスチューデントフォーラム」をオンライン開催した。今回は、ロシア専門家による講義に加え、ロシア人・日本人から成るフォークデュオも講師として招き、よりロシアの社会と文化を身近に感じられる講義とした。このフォーラムには、700名近い本学学生および教職員が参加した。

・ 日露大学協会等でのベストプラクティスの共有／成果報告会を実施

日露の大学で構成される日露大学協会の活動において、交流事業のノウハウ等を発表し、成果の普及に努めた。また、2022年3月に事業成果報告会をオンデマンド形式で実施した。

■ グッドプラクティス等

・ 大学院学位プログラムの3期生(2名)が入学／1期生が修了へ

大学院総合理工学研究科「東大阪モノづくり専攻」へ、第3期生となるロシア人学生2名が入学した。1期生の2名がプログラムを終え、**修士号を取得**した。同専攻では、モノづくり企業でのインターンシップと連動させた研究活動を行い、修士号または博士号の学位の取得を目指す。